

地理

河内

名所鑑

河內國名所鑑序

阿波國文庫

不忍文庫

河内國を神武天皇東征し多す時戊午
の歲春三月は山玉の草香の里にすなり
是に曾保理命とれ河内の玉れなりとれ
後つる事聖德太子の旧事記ふるされは河内の
名取人玉のなりありとて及正天皇中
元年十月宋難の多は教し多すなり
此玉は教うし多すなりわがなり日本紀
は是より元明天皇の御宇に諸國乃玉

里の名をさるるありては河内の名を和泉と
してむらひ國なりと元正天皇の靈龜四年
四月甲子の日大島日根和泉との郡を割て始て
和泉の郡とあらるなり聖唐の類聚國史より
のせられ延喜の氏ヲ式と大辨郡石川等より
て十四郡ともゆその中に丹波とありて丹南
丹北ともと源の頂の和名集にありてその
庄郷の名具にのまるといふも其後の世に
増かふの名ありてつゝかゝりて諸誌に

寺の來歴中緒誌書に記してある事ありて
いひて河内國志記和泉の里と因氏淳久
耳記のようひよとてやとていふなり其の來
由はさうして河内名所鑑にあらはれて
は梓とえりて世にたふさふとてひひと
序はくしひそりて元明と皇との和銅年
中ふ風土記とつてられてわりのなり六十余箇
の郡郷れゆ寺社の名ありありとあり
さるゝといふと或は和泉とて或は久とてあり

うせし今の世より出雲を前乃風を記し
 のせり河内の風を記しやまんいさこん
 もとひありといふもよちの記のみさ
 う中右の東の月よりふ事いさくさ
 まと田氏の國ふ切ありと鉄の蓋を
 こころもくれ方もあつさくさく
 一とこひありと席と延寶七年卯月
 廿二日海下の季に

河内名所記

石川郡分

金剛山

葛城山

千早城

下赤坂

甲元坂

友林

屏風塚

出合

下木戸口

酒堂寺

圓光城

耳南坂



依徳妙見寺

竹谷

河内親善寺

中村

百回

龍泉寺

毛人谷

富田林

菊井

猫路山

高山

本見山

上糸坂

楠正成石塔

鼓ヶ尾

久越峠

水ヶ神社

久分寺

小久越寺

河野寺西福寺

小別井

大伴

東西系落合河

石川

白木親善寺

平石城江

小加納法苑寺

梅川

苗加納

古田

大ヶ塚

芥生石

馬谷

森屋

神山

東条川

寛弘寺

日出月光の寺

中津原

小吹雪花寺

菖蒲ヶ堂

観心寺 是ハ綿部郡也

一須美

山城

柳尾

弘川寺

畑村

高貴寺

新堂

西米ヶ池

新志極井

下水分神社

附岩弘川井

等

法橋寺

老れ身も金剛山へつはるへはるさかへつと杖をたて

日

貞室

長旅はついでつて麓に人もあふれんもそのた

日

友和

よりえく金剛山よりふつと六胎花といふとあふれ

日

毎雄書

金はついでつてつたはつたはつたはつたはつたはつた

日

系音

と宋がり金剛山よりつはるへはるさかへつと杖をたて

日

一有

地ふ火風空よりえくつはるへはるさかへつと杖をたて

日

可清

高くそひふふれ素黄ふに成ひはるさかへつと杖をたて

日

正音

種ふはるさかへつと杖をたて

日

清風

金剛山よりえくつはるへはるさかへつと杖をたて

山れ名の金剛童よりちこ極

佛つたてと云ふと云ふ

少方や金剛山人許つはるさかへつと杖をたて

雲つたてと云ふと云ふ

孝後玉本

正信

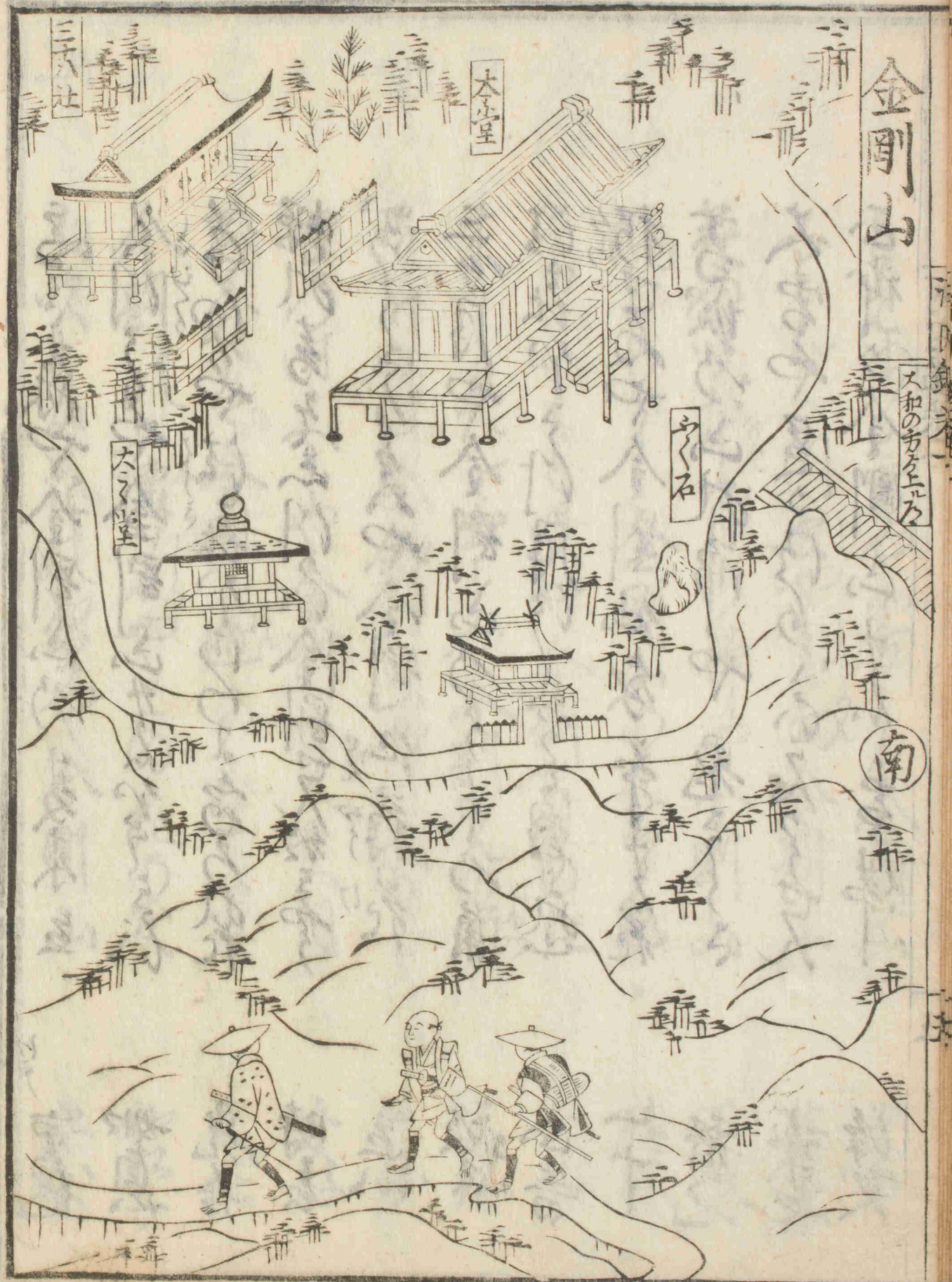
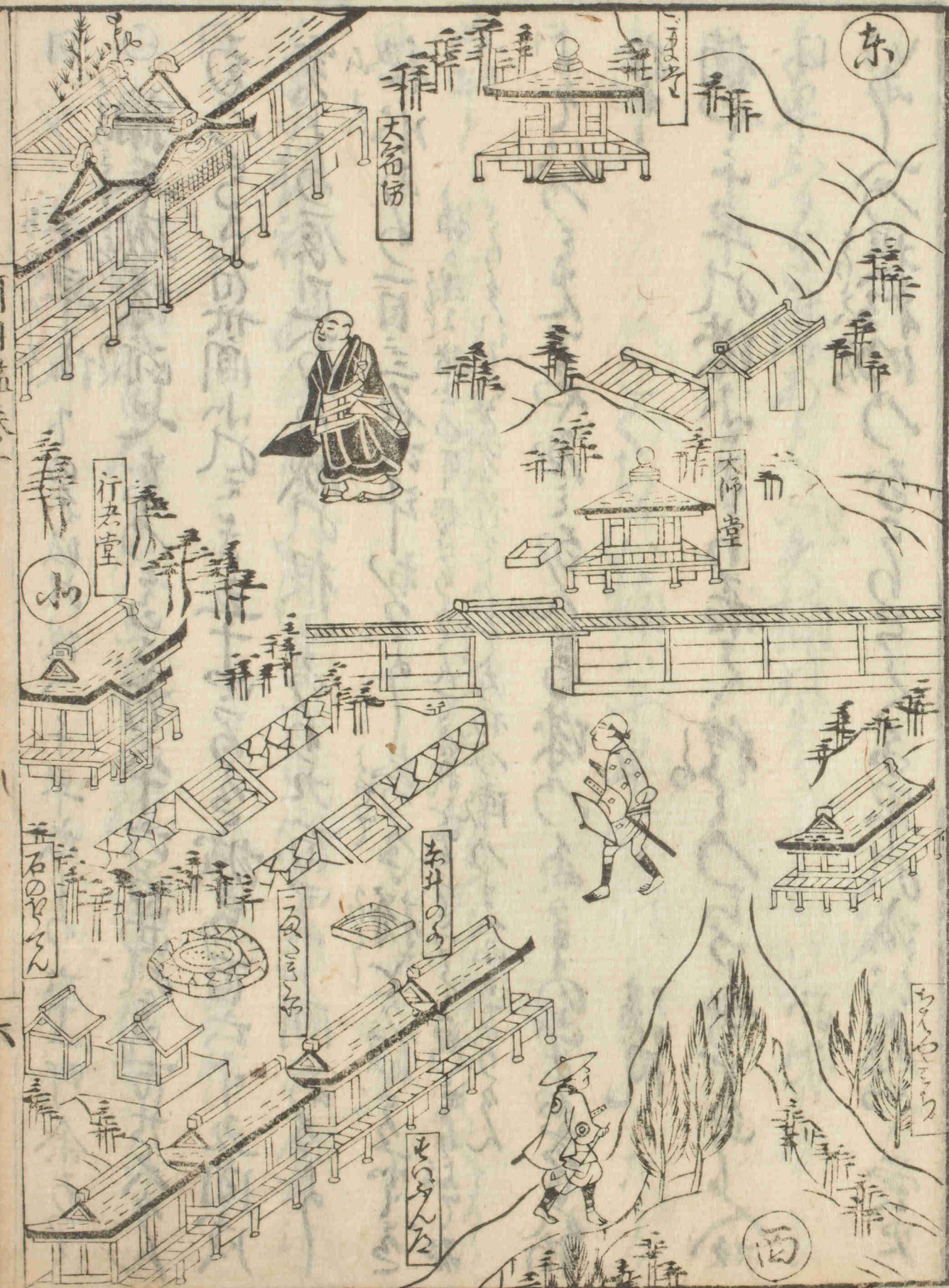
一志

さくら花の雪や山方金剛山
やとわたり雲や暮面金剛山
花乃咲花育の神や金剛山
風よりくく金剛山乃花の海
糸のやうと咲や金剛山人の花
木より花と出ともや金剛山人の術
花とふむる金剛山乃花の
花乃河よりや金剛山人其目
あふと金剛山とふとふとふ
金剛山人懐かやこの花乃女
山吹も花れ花や金剛山

栄貞 葦葉 正威 清次 心之 清勝 雪紙 友好 久任 如子 安求

さくら花や金剛山乃花の本立
くつとや金剛山乃花の
手向や法花の山乃花
花れ花とふとふ金剛山人
つとふとや金剛山人花
三ヶ月や金剛山乃花の角
法花の山乃花の山乃花
花乃花や金剛山人花
葛城の山乃花や鬼の山
大雪の山乃花の山乃花
正神の金剛山乃花の山乃花

重健 如貞 光善 時表 立心 政公 正音 一十 替也 樂也 淨久



千早城

下の赤坂に城一、千早城より六十町余あり

○楠正成城跡也、東より三百六十町、西より百廿八町

南より三百廿五町、北より百六十五町、成

実より、辰巳の城に根あり、九百四十町あり

秘水あり、一日三石六斗あり、（よきて）（きり）

楠の謀は諸軍の軍勢をわたりて合戦をわたりてつゝ、城をわたりて、
より多しといふもの、若くして、ちの陣のまふまふなり

くそいふて、や、（きり）（きり）

相奇

清凡

楠や千早に城ふ、より、（きり）（きり）

曰

正明

いふ、乃、（きり）（きり）

相奇

友和

千早より、城あり、（きり）（きり）

曰

正生

武吉、その名をくらに、楠、千早に城あり、（きり）（きり）

曰

貞室

め、（きり）（きり）

曰

政弘

千早に城あり、（きり）（きり）

曰

元信

千早に城あり、（きり）（きり）

曰

友和

海とかながしと祢と千早にいふ石六汁ひとい出せよ

約魚いり千早う城りしと由家 長 政長

千早うりといやくもの本家年 久住

祢風う千早う株すん花つくさ 芳昌

口あくらん江しらもやれ花年 立次

兵糧うらしやう城りしと由家 政云

千早うりといやくもの本家年 友和

きこみうや千早う株のうりしと 辯愚

楠や又又えつらしとやう城 何別至 正次

くもの木う千早て名家時鳥 政云

火矢利あう千早う城りしと由家 歩月

夕ふらや千早うり城りしと由家 一千

山人れ足もしらもやう城りしと 忠正

千早うりといやくもの本家年 正寛

楠うおらういひやらしと由家 可房

千早うり城りしと由家 義之

千早うり城りしと由家 政云

泉しや三石ち斗しと由家 如負

千早うり城りしと由家 友好

らるやうい城りしと由家 常政

○下乃赤坂楠の校陣也

東より西より十八間水より十六間南より山より

珠の長南山貳百三十三間横十五間ありおれ家には較
万ある石炭をひきおとめて石をひき焼く

天王寺石の多居たう柱は武蔵守佐人見のや恩に生年七
十二赤坂の旗而て武恩にあら討死にせしとて一首書付たり

むさうの老木れ揺揺ぬとせむの老木れ下にくるまど
右の柱は相模守佐人見の九郎資貞の嫡子源内共未資忠生年十八歳又
の死骸と枕うて月我場三命と止め畢ぬとて一首書付たり

ゆくふり子と思ふ園まきん六の街の道より見
れ可

とれれゝ思あきくさめいゝなをれわさうふれ城のきり

山れ名赤坂もま八正を又の軍の血やまきん

は別当 正利

日 弘重

ひしきふりうまほしき河内人のや孫の尻あき

林次

日 旗久もさき赤坂れ軍場々今之風はまきん

赤坂れ川柳の墓のりきき 文玄

日 かのく赤坂れ秋風に散一葉れ船やそれり

赤坂れううひや今鶴あつて 意綱

のびんれ血赤坂やとあ人酒 周公
赤坂れやううとあうとあう 重次
赤坂れあううとあうとあう 久任
赤坂れあうとあうとあうとあう 清務

甲戌坂

正音

日 名 甲戌坂とていひけりて甲戌坂月とて保る

正成

吉方

良長

意朝

草堂

重次

弘

弘

利光

仙野

及次

隆玄

伊次

利房

義三

政長

及次

吉方

吉方

吉方

金魚のやうにむく屏風に
 初嵐ふきけや里中のやうな塚
 女郎花乃化粧不屏風に
 屏風塚に法や花野のまじ
 じやうふ塚の露いさめ令
 中吹や草とくれ屏風塚
 紅雲いさめ令いさめ屏風塚
 屏風塚より花を雪や罪砂子
 比叅雪や白法いさめ屏風塚
 ○出合 いさめ 法ふれ軍勢の中へ捕らふ
 三方よりあ合うる軍は勝てず
 唯心 崇水 重次 良長 可次 政長 義元 伴次 久任

楊貴妃 やうきい も星もわひほし初秋のころの秋夜に
 正音

日 ひ 政弘

秋の夕も流るゝかたのいさめ合ふのたけ月れ猶書
 出合 いさめ ちとせり人の数草
 歌 うた ちとせり人の数草
 生奇 なま ちとせり人の数草
 おふ人 おふ ちとせり人の数草
 花乃白 はな ちとせり人の数草
 あ門 あ ちとせり人の数草
 か か ちとせり人の数草
 浮世 うき ちとせり人の数草
 清信 きよのぶ ちとせり人の数草
 政長 まさなが ちとせり人の数草
 定廣 さだひろ ちとせり人の数草
 忠孝 ちゅうこう ちとせり人の数草
 好貞 こうてい ちとせり人の数草
 吾朝 わが ちとせり人の数草

政公 正後 藻川 可圭 吉勝 正勝 唯正

良長

梅乃とてけちや一乃木戸

良經

風を名に一乃本戸くし花軍

良弘

へ
あ
く
一
才
木
戸
々
ら
た
れ
あ

林

一の木々にくがひの極の那

正信

一、オ戸^コ礎^ソや^ハふ^ハり^ハと^ハり^ハ常^コ代^コを^ハ

亘休

一、來戶にとりて、氷^く寒^いうか。

易

蟬乃初大音聲也一乃其子

好昌

萩や一かふふ戸口より綿母衣

弘聖

酒堂寺本寺荒王像現也本寺有十所背

狂

澤久

名ふおつ酒堂寺山てみえん寺といふれ殿くまふ

そとへ
くはな本にふじ猶強ふ

性宜

鯨より移る比叢乃之矣月

每雄一

梅嶺山く月の嵐や雲うきと

重次

月火氣々々なるをう猶海山

定款

嵐草ハルナ福フク江エ之ノ梅ウメ海カイ山サン

利音

村紫也虎毛乃楠路山

久任

化糖多しなりや
時白乃梅落山

室

雲ふ鳥のなまやあまの梅は

利

○ 名山 和國太郎 文念ヲ
ノケニ城之 本堂 無九町

芳山やふれ野老乃ひを矢念

意

花とや心やまゝの穴媛様

清
膳

○本入ぬ山苗一長乃乃小涌出ーろあがとんぬと長

峯ハ八社在就高堂土面觀焉

太子香花いふて切草御中表座より廿八町上

受夕

狼藉若と批予ふふめと風うきなりと人ぬや

澤次

君にふりて紫方山ありて乃てふすは

名汁やうもりるふふふふ
清沢

花に氣のそよや本心山櫻

あまひやよ中戸あふふ花

爐
 卷
 う
 り
 足
 ぬ
 山
 中
 心
 極
 花
 和
 常

利管

卷之五

...

今よりふらんやれとふぶら

一重

登らん本らんぬ山よ花うさ

光伯

咲花いかなぬ山つ橋ふら

如元

花れならんぬやまといふ

義元

未摘くかなぬ山すん新茶が

二笑子

月夜し本見ぬ山のふらり

忠貞

そつと今らんぬ山やもれ

未如

未なりやれとふぬ山つ葉に拂

友和

是いさくぬ山う今初れ

定久

大富ふ本らんぬ山つ葉う

必云

○上つ赤坂平野の鹽城記也芦花う跡に

埋掘りて十八町水たき子山つ尾と埒切二丈餘

下に植るあ止めらまとい城跡うら

東尾ら十九町上

ふれととかりとむら城跡

立心

龍のきりかきとあーるあ水

久任

○楠正成石塔本堂より子早へりあより

役所

周玉

くらせーなまきとらと楠石ふかりとあまい根

日

友和

子早よりまのどと杉せぬ楠石塔と成家にあふ

日

室継

楠うかこまろ流れ沈掘ふ雨も嵐もあふ石塔

相尋

海より小方ゆり石碑れ消せぬ其や西門のちり人
日 相尋

世にふくまへ今に後であい金剛山とくまふふと

○鼓う尾水越峰一ふらるるまふふと人の方也

けふう尾や嵐うまふと相尋 光る

まふと鼓とあやまふと終う鼓う尾 改云

鼓う尾まふと神示のけふう尾 同

○あ越峰金剛山とくまふふと足 谷川

ららつ○けふう越う峰う尾 清風

死ふまふやららつとくまふふと足 改云

○水々神社

神書連水分神社とく五社中ふあふ神た国神月神

右々異子源子也島井楠ふけ自守う顔あ

南水乃明神の社うあまの楠正成神ふあふ

文寺八十一面観音立像門とく二尺寸じやうとく

相尋 正之

花よ寝候て起て舞わん蝶とく二とくふんれ神の告ふ

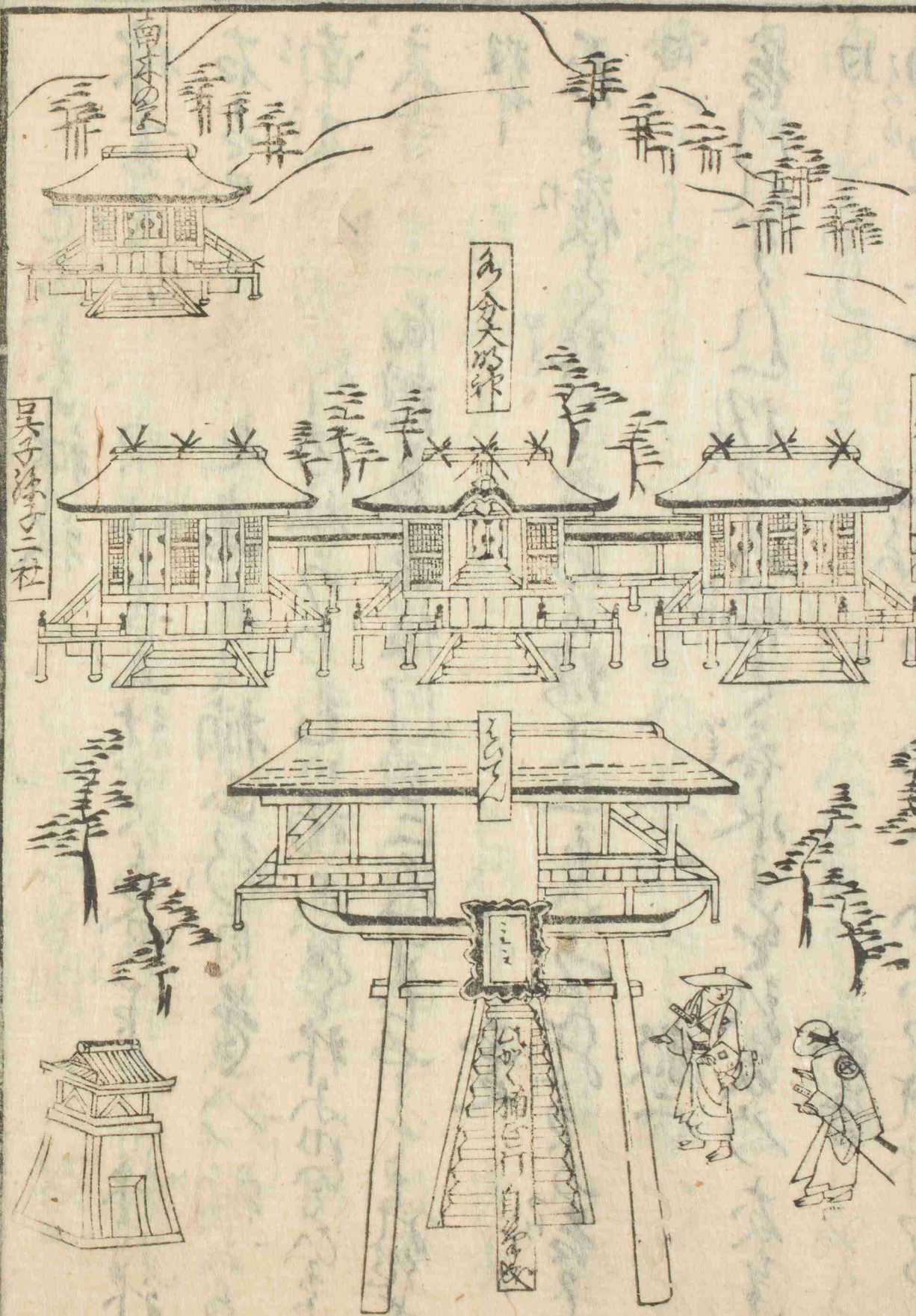
日 教二

谷川れなふし一羽をふ揚とく春水とくまふふと

日 正音

初湯とくまふとく再神とくまふとくまふとく

水分神社



いさく世とどいづんちん神のま

貞室

水とや回らぬ氏れちり神

同

すいんつ神風とや扱れぬ

澤久

波れけとく水分り神

松縁

○水分寺十一面観音立像所長六寸五分あはれは乃他

○水あ分懸ふち十一面観音立像所長六寸五分あはれは乃他

○河野ある後ち十一面観音立像所長六寸五分あはれは乃他

○芥生谷野老乃名也

正音

摘ふ根がまてか何芥なれは乃他

日

重次

いとあ海久しとく芥なれは乃他

雷消く七草はびや根草自延

鶯れよりあつ里の芥生 谷唯正

口りたふふふふふふふふふふ因成

鶯れよりあつ里の芥生 谷一刹

口りたふふふふふふふふふふ友和

○馬告ひまご親者も十一面親者も立依りて長三尺

る若れ花んや馬以親者草重次

○森屋常会も三親者も沖長二尺四寸

○神山こうやま休願堂十一面親者も長三尺三寸餅つと云ふ

校やまひ餅つと云ふ寸細紫改云

○東条川あづまがは一也

ちやうや神山風の吹落く東条川よなみ

波の智や東条川のあせう久任

○寛弘寺かんこう有堂る場り地蔵菩薩の比喩七首伽藍不記あり

ま雨も牛かんくせんく大田堂光重

花よりしふんくくくくくくくく光重

くくくくくくくくくくくくくく吉重

くくくくくくくくくくくくくく同

○日出月ひでつ村光の寺正保院正親者土月

清のうい堂の四枚のかきやうふふふふ土月

○中津原の飯寺聖親者も月見地茶師海縁あり

○小吹村こふき甚花寺十一面親者も沖長三尺二寸

○葛蒲が堂地蔵所依四尺三寸弘法大師開起元承の生神と書也

うさろくつうあふつをれ新瑞ふ 意明

○観心寺

山号八捨尾山役行者の向基派起えんさ八丈惠乃えんしやう

仁明天皇乃河宸鑑以到あり二条衣園白源剛興事

本堂南向中堂如意輪観高七星とてうさ内八八

長二尺八寸有を録して眞利帝母天乃社あり重子とちありを新

坊敷四十六切あり弘法大師乃額あり

後村天皇御廟之文恵れ廟ありと云ふ者

後醍醐天皇御廟乃論旨教通あり

飛乃れ獨銘あり楠乃多敷庭あり

又六弘法乃才子本寺の二長者也

古く格一章ありと云へ楠乃乃時ありと云ふなり楠と云

うくく人ふ語とてなりと云ふ記たなりと云ふ一書あり

と云ふ護摩堂れとのふはあり本廟伽井西門に

と井の南よりありと云ふ川ありと云ふと云ふと云ふと云ふ

やうと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ





大いゝと大いゝと大いゝと大いゝと大いゝと

程奇

魚翔

つゝあひれやまゝに本つゝ志のゆゑと突進せし整也

四

友和

たゞけしうんをびんそ楊梅れゑろといふなりふをこそ

同

一有

仙人を襲ふといふ海にひめがたふとてをさやまり

西之

大工がうねやまのどきふにきりしまゝに酒れんふひ

○ 依海村妙見寺正觀音御長守分初基乃此也

○作爲不動明王淨長又弘法淨能依依依

河内銀為寺正銀為御長一尺二寸思沙しんさの雲々人

○中村大田雲茶師雲甚田文下ふり衣き襖たて也

○ 石田親善寺正親善卿長一尺八寸五分

龍泉寺

やうな上たるこぢり

我大臣の本心を以て示す所なり

ふぢにあり天候池なりをえんゆふ七日七夜一時就至人

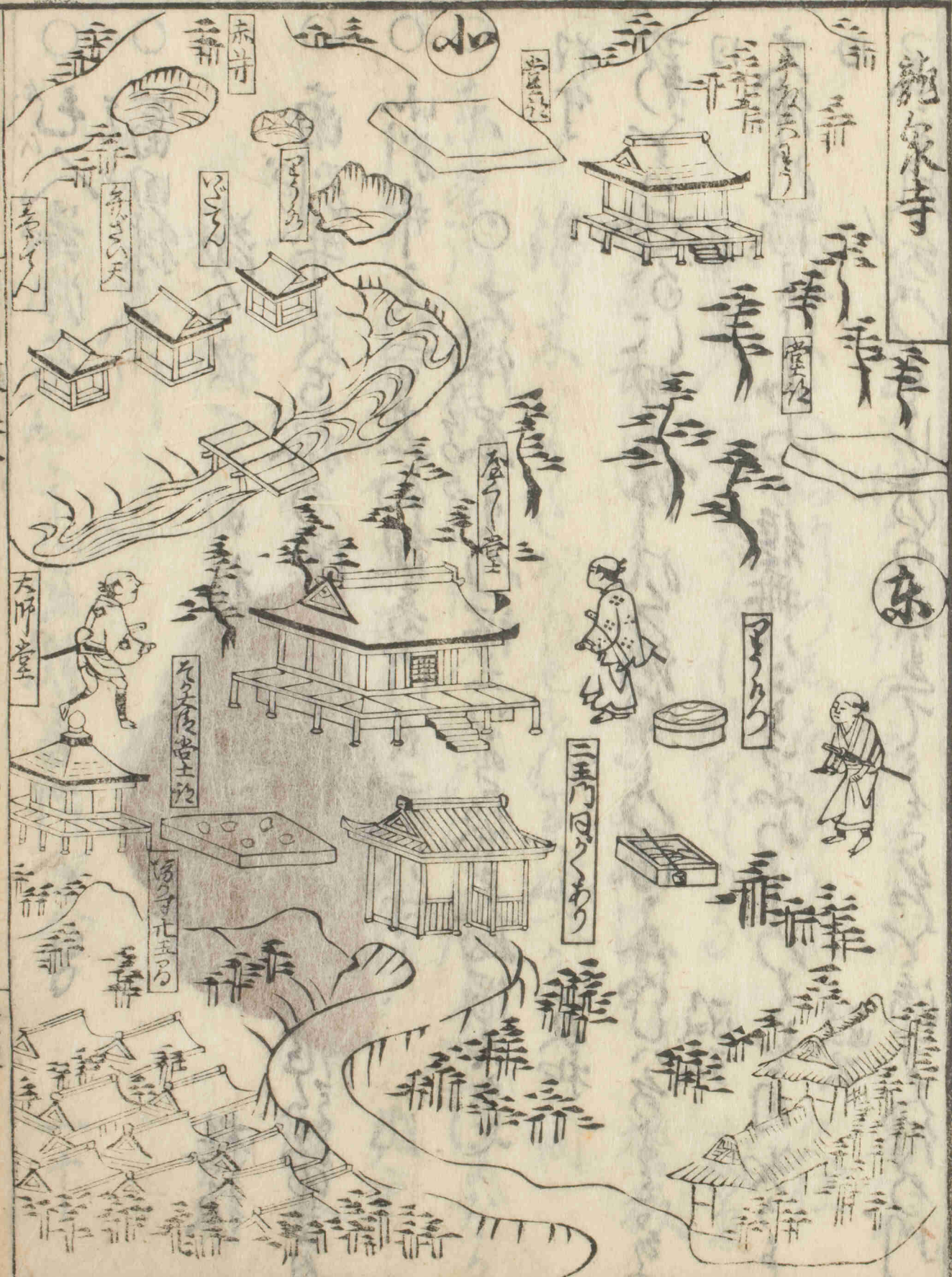
つゝとてふへ太厚の整言教へんと我法よく相ふ

と則ちうきにならぬうきを水喝して心定

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

龍法味といふは池より湧き出たる龍涎也

大元氏本堂南じと茶師如來牛以天王乃受有又沈
 大いなる池の中に鶴三つの中、并々天衣の天
 衣はたゞ金小三つに内ぞこるまゝの鶴は又東新院可
 る石のやうして大むてられねはふら雨といつてふ
 少いものをもよほ俄くふつと坊敷廿八新二王に三王を
 弘法は信龍泉もとまう家東もれ長者大受もれ老
 新泉もろ内中山寺もろ以観音座像沖長守み分
 咲花より年と吟とや新泉寺
 夕立れ雲やゆとろ新泉寺
 西元や忍化天よりわろ新泉
 則武
 惟貞
 貞弘
 友友



○毛人モウジン 最澤寺十一面觀音 淨長八寸

富田林

薄く炊き置ける酒を

搭板

○南別井い文也梅乃坊正親ゆき者
二尺二寸ふたひたふたすん太子みこ飛と弘法こうぼうの井い有

○小別井文寺土面觀高門長二尺八寸表目乃此

○大伴軍主乃協二つ有故支ぬ塚大支

和奇

新といふにや、伴れど、うゑの体じ、は、あゝと、うゑ

日
ナ
豆
無
、
豆
里
わ
り
り
と
同
如
う
も

正三

大德如海
先王如海
政公

ふまれば乃さりのあふまてうき名と流す大徳の

いさみづていせ太伴の三門系行
意朝

大伴ハ大名人乃志業ありけ
久任

星より懐より
 花よりふ
 友友

女帝在風々之移々更ぬ隊
檣板

錦木うゝゝかりとむむ支ぬつゝ
同

○東条川西条川大津乃小丸河原より所なる

とちや場や東西条乃々を
弘重

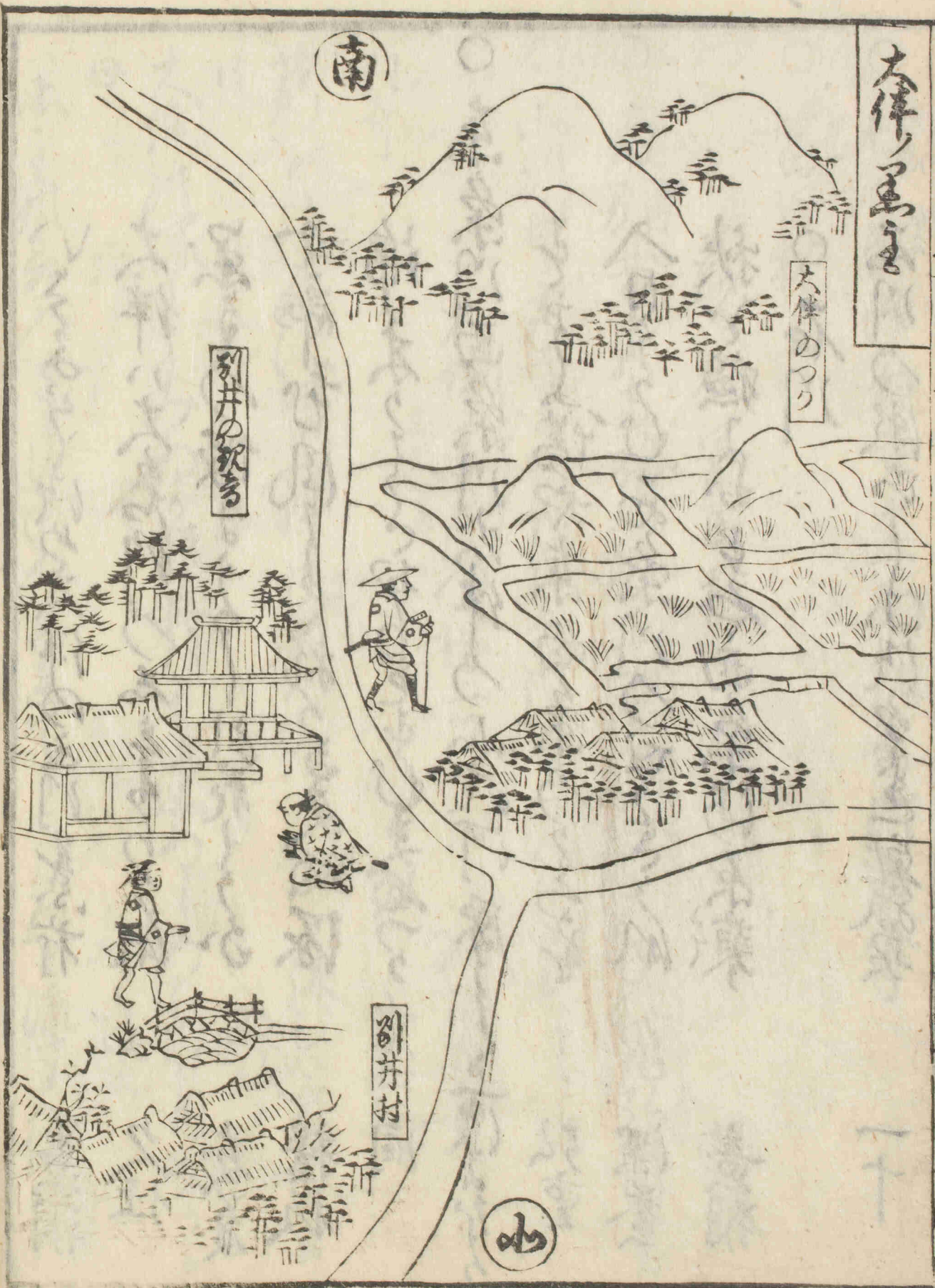
入目うひる糸川乃せうふれ
深養

秋と植ふかゝるや西条河原菊
意明

○石門

石川乃漱石
ふはるる
一十

大伴のつり



○白木村親為寺十一面観像所 長一尺六寸

あま人もくや白木ぬらうめ

常有

くせ国ふい白木ゆりや花れ宿

次也

里れ名の白木けりうたらし葵

可清

紙うほりむとや白木つるまき

貞室

あきむらん里や白木つ月つら

利房

○平石村親為寺十一面観像所 長一尺六寸 平石乃城地あり

観音

松原

るてあしうと今もあはれあといふのきくわやのふいふを

平石乃親為寺十一面観像所 長一尺六寸

良恵

平石乃親為寺十一面観像所 長一尺六寸

光伯

秋風よしうとやあしうとくさ

重勝

○法花寺山加納村一志ふあ皆法花宗牛と示れりて也
 下也入るる家なるる家智川はつゝあ下梅川と云
 相家 津久

法花寺れふり出河和河川つ流きむ月と云ふい
 日 久任

和河川れ水くきこふ新敷こにさるうふれれ法花寺

花よ吹風より立ち家より那 政長

月けやたふくう家よりんじ 富吉

是ハ天のそり花より園 元中

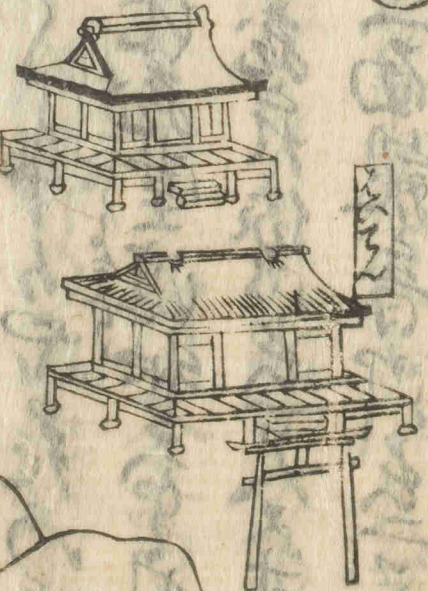
かあふくうそふくう家れそ月 冥休

夕こもり星やたふくう家た凡 意朝

法花寺

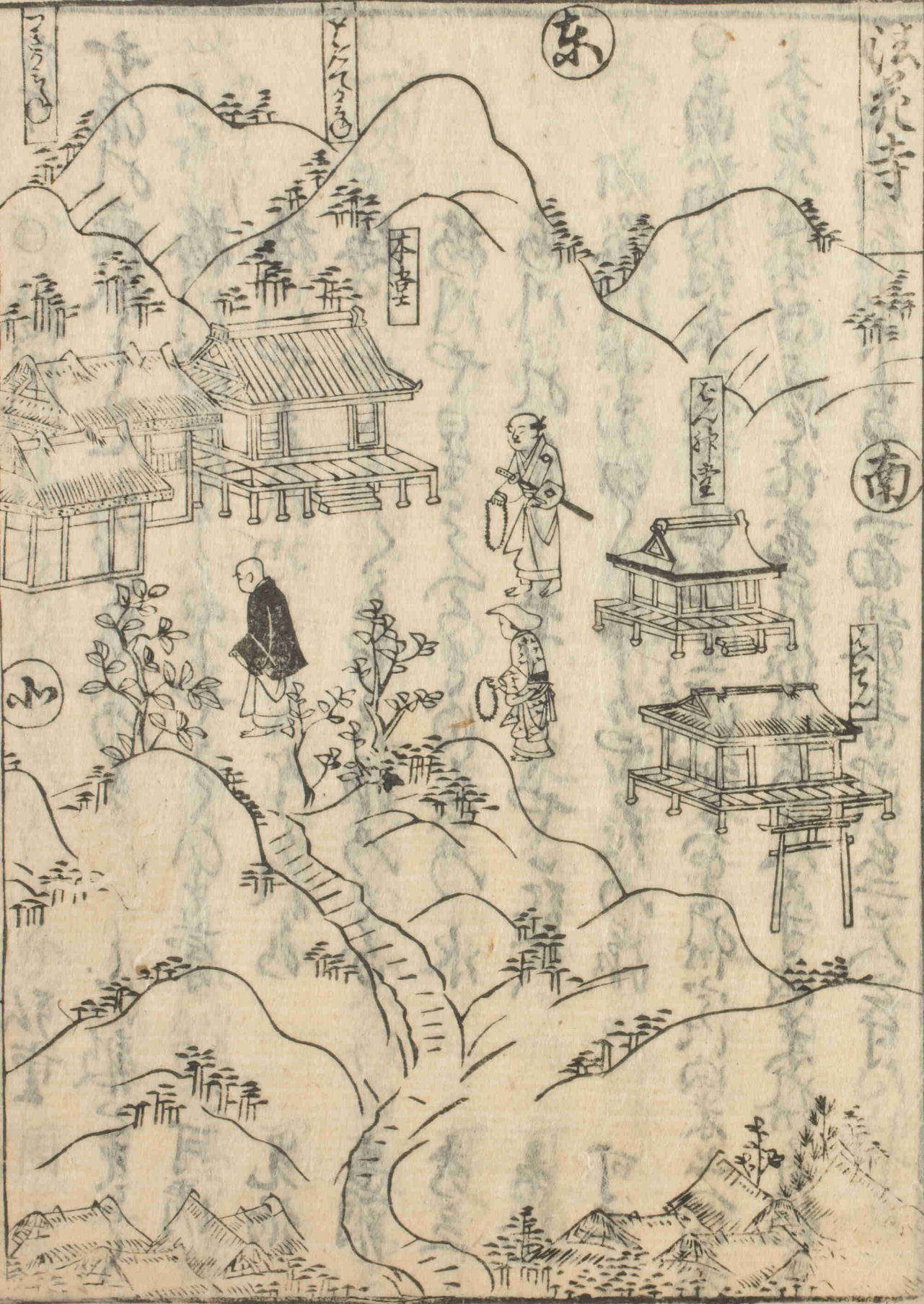
南

本堂



東

本堂



山

法花寺

廿六

○
新

弘堂

打浪れた飛く足るむ川つる海に報さるる

梅川つるふしやういさ
可清

梅川やまれ物とくふれぬ
先伯

梅川やうくもろく浪乃ふふ
吉朔

梅川や星くみく河去り水
秀三

梅川の香りとくや花散
香陰

梅川よすくよすんや花乃浪
可正

○南加納村東後寺比叢堂淳和天皇御定比叢木之上開基
本名比叢木也定比叢木像以長一尺一寸四寸四釐以自他

○寺田村山下有十一面觀音泚長三尺許

大々塚村親為堂長正親音出長一尺一寸以親為八

下總必嶽那々々々人親友もよろろり

为我所安置已也
御本号也

大ヶ 根来法師城擲少旧記あり

花乃阿ふともく人親名堂
可清

法無主之為心花也
可正

○一須美村より十一面観音堂、天神社、源氏太公権、安方、食神

白梅や花かんひとみの御禮木
一十

○ 山村僧幡大明寺正親為所依
守弘法乃所作

氏やふふふふふふふ
可正

おれふり冷うをれ又無うか
同

○杓尾村宗高寺十一面観多由長二尺據は大本有

枝ねてまいてしれるの據をくといはくより未だり

たり花と杓の尾そなりを都云 意明

○弘川寺後乃の若れ開基山号龍池山是本堂は高師

糸線中と云ふ寸後乃の若れ池也清水原天皇一宿也

想ふ應よは金梨とては後人住持のうにて歌と云ふ金梨

一粒乃内と云ふは後乃羽池初より大原乃の自池新

云坊は西南池土面観多由長二尺大原乃池とすや極と云ふ本あり

乃の蝶やすやくと云ふ弘川寺 保友

花龍と徳利うつかり寸を極と云ふ松原

弘川寺

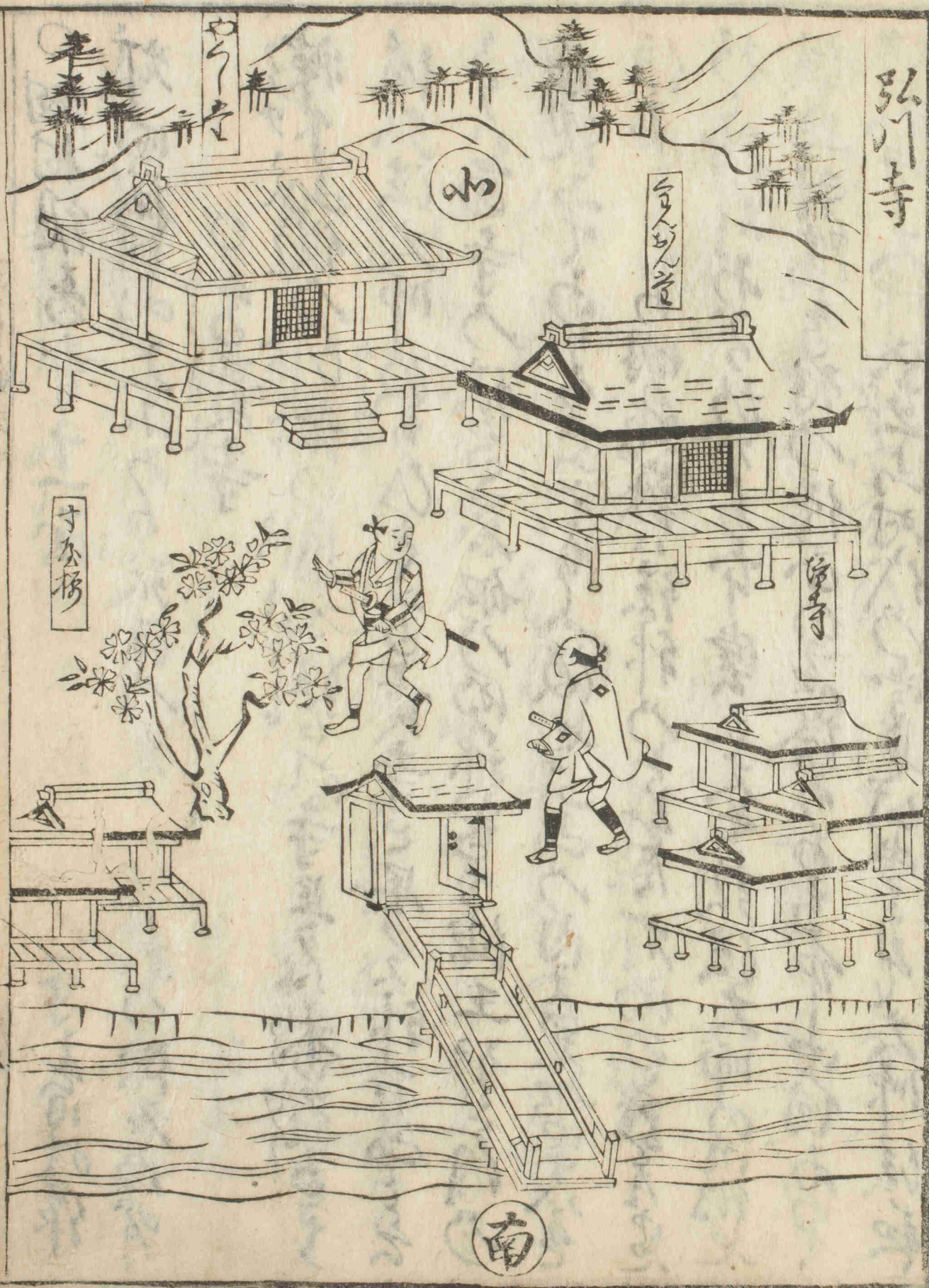
台人処

弘川寺

水

南

寸を極



海內銀卷一

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

三才表神乃社ありいづるにやそとあり
ひるひるふとがこころふとをい若るやと
西宮弘福寺正観音宗長一尺一寸五分目乃他

相寄

時表

高きもにどり二寶とつ時ハ風高はとく常樂より

日

政安

高きもふ佛法便とつ鳥つこひとさそハ家ハ極樂

日

唯正

何のうに佛法便れもさけハ耳乃あかりとつハ極
るにハ大師きうハふとさそハ内ハ本寺ハ大乃歌と
おろ一開帳乃男其たふてゆりる時ハ 二之

高きもそのわと人作乃は歌と女人ハおひさるもち月

日

高きも乃紅葉とさそ

澤久

深きも乃紅葉とさそハ娘れさつ海でぬハ綿乃足

郭ハややらんふそかなハ香花ハ

意初

なせあふぬるもさそハもち歌と

義元

高きも乃紅葉とさそハ娘れさつ海でぬハ綿乃足

政公

高きも乃紅葉とさそハ娘れさつ海でぬハ綿乃足

安永

日

若船内林

野鹿

若船乃のりさひハ神乃乃加杓のちハれ煙ハとせふ

紅花丸ハとせや若船ハ月乃船

定親

破乃乃つとせ若船ハ神乃神乃餅

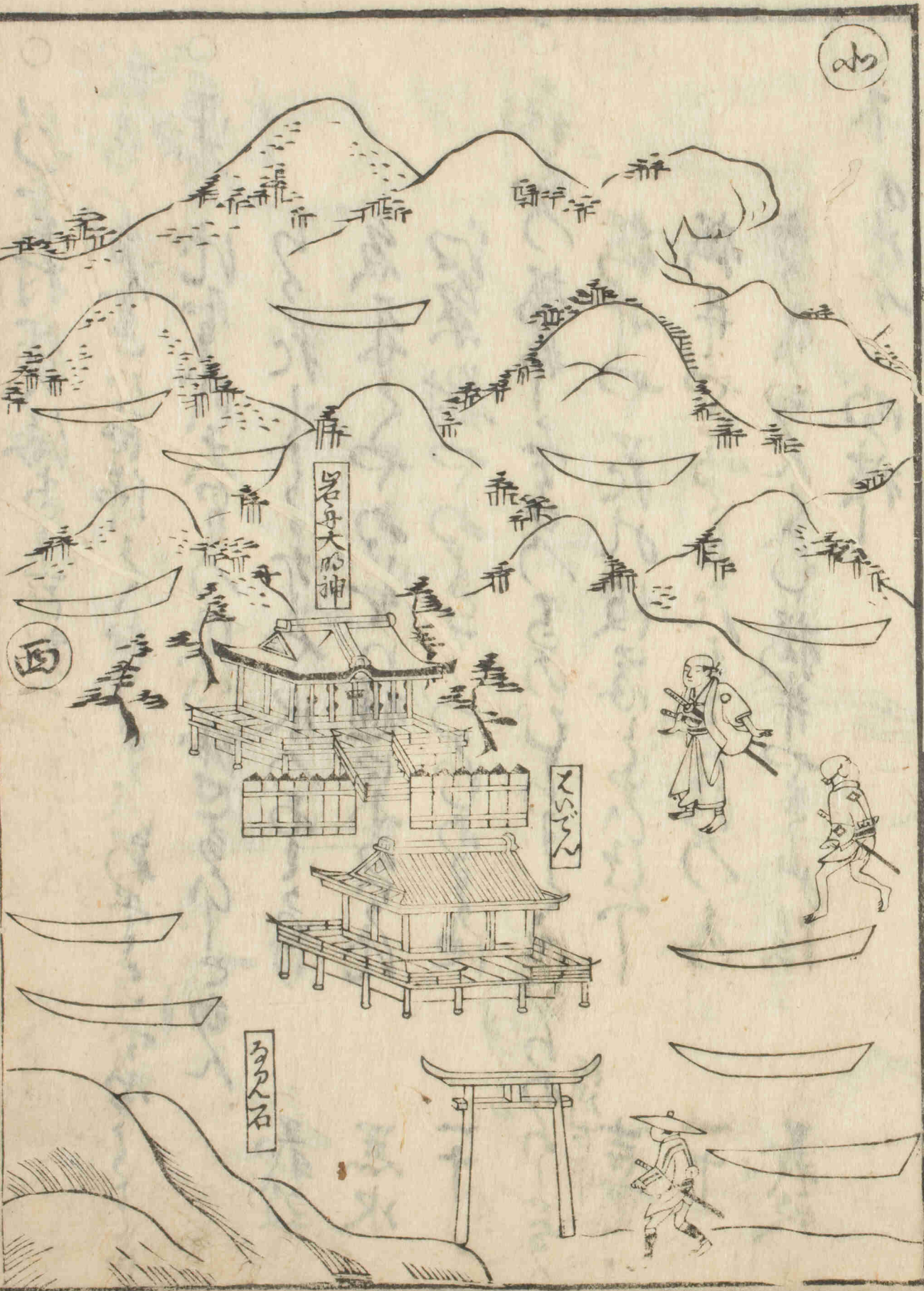
時表

三貴寺

東



水



○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地 久住

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

○新田村寶海寺土面釈尊
御出元馬守の分
あん何孫の地

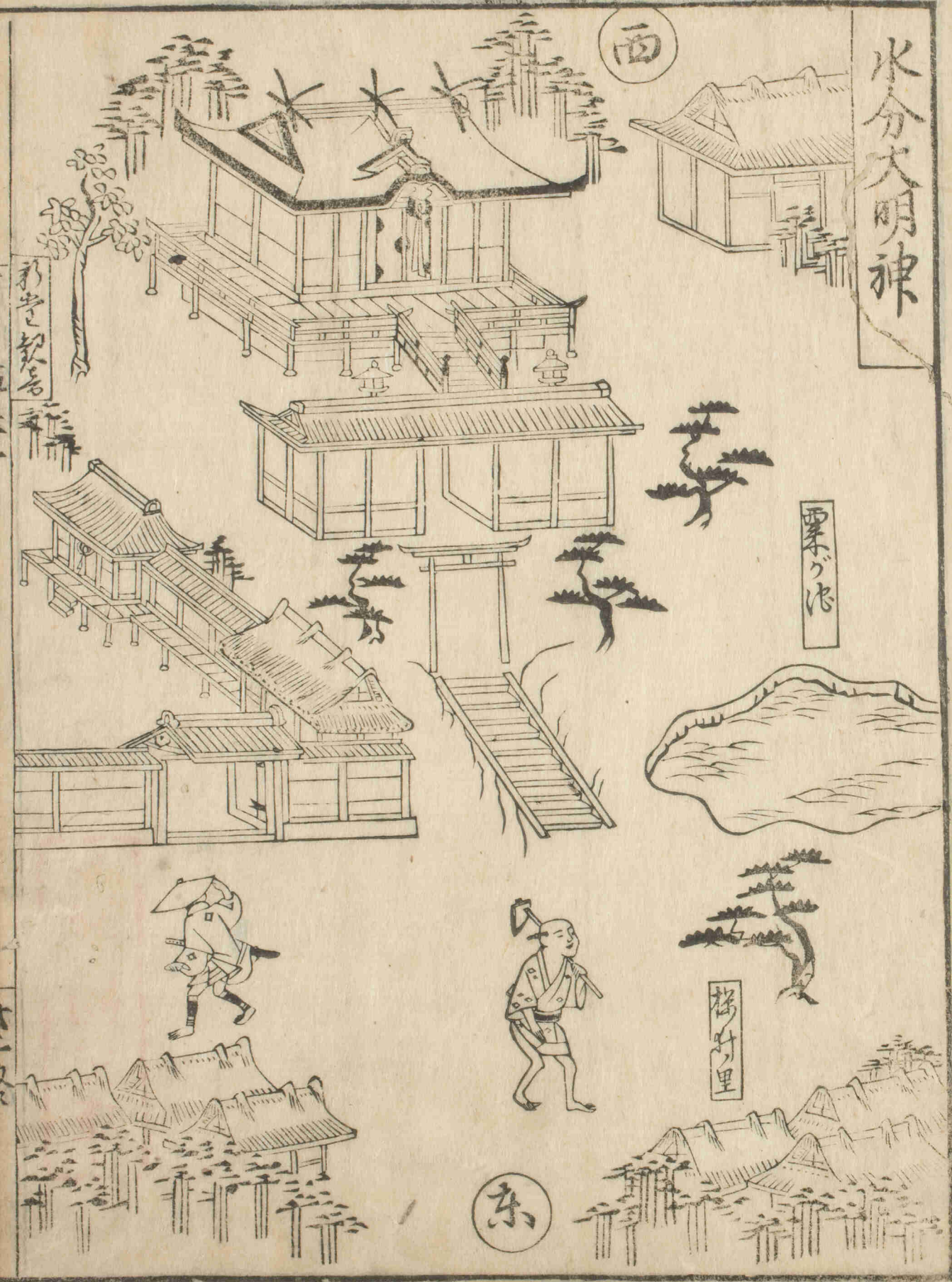
水分大明神

栗ヶ池

梅野里

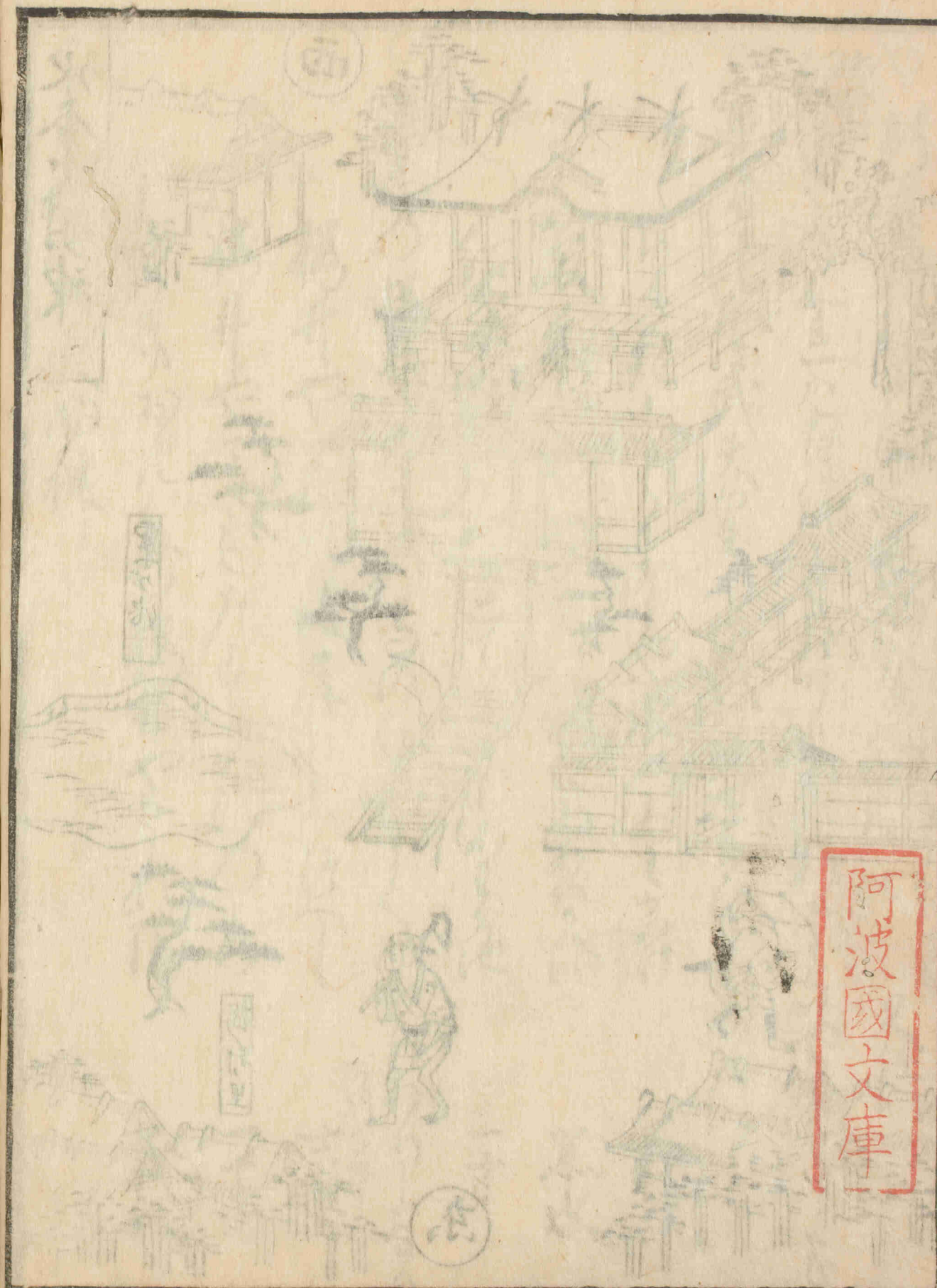
東

西



新田町志

新田町志



阿波國文庫

110X
160
6